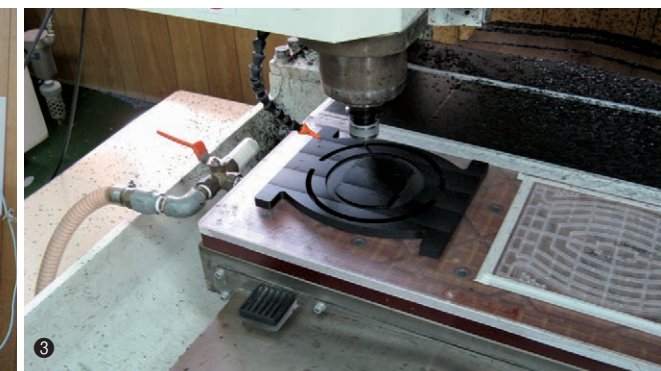


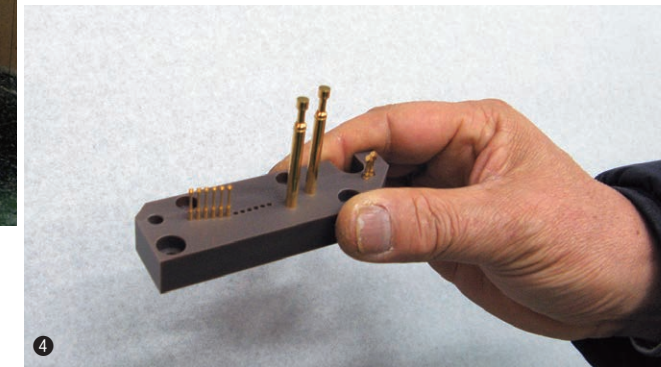
①



②カーオーディオ組立ラインに使用する治具  
③樹脂をフライス盤で加工  
④真空チャックで高精度加工  
⑤樹脂と金属の複合部品



③



④

## クリエイション・スペース・カミムラ



代表  
かみむら ゆきつら  
上村 幸貫さん



少数精鋭の技術集団を目指す

変化する経済社会の中では、経営者の理念に基づく経営方針は、時々の環境の変化に応じて常に変化を求められるものと考えます。「時は金なり、企業は人なり、経済は生き物である」、「コスト意識を理解し、その企業を支える」、「高度な意識を持った人材を育成し、時代の変化を敏速に捉え、社会に貢献しながら少数精鋭の技術集団を作り、成長と継承を図る」これらのことが私の経営するクリエイション・スペース・カミムラです。

■主な事業内容  
組立治具の設計・製作、樹脂加工  
■主な取引先(納入先)  
カーオーディオ機器メーカーなど

住 所 / 〒570-0044  
大阪府守口市南寺方南通1-5-21  
TEL / 06-6993-1800  
FAX / 06-6993-1807  
創 業 / 平成16年4月  
従業員 / 3名

# 熟練の加工技術と発想力で ものづくりを支える

### 事業内容と沿革

## 設計ノウハウ生かし、樹脂加工と治具組立を両立

平成16年、樹脂加工会社に勤務していた上村幸貫代表が50歳で独立して大阪市鶴見区で開業した。樹脂加工業を本業とする一方、カーオーディオなどの組立ラインで使用する周辺機器、特に組立治具の設計、製作を行っている。樹脂についてはフライス盤や旋盤で加工、造形し、金属の加工は外注している。治具は機器の組立ラインの各工程で作業が円滑に行えるようにするもので、流れてきた半製品を固定し、ねじ締め付けなどの作業が素早く行えるよう工夫している。

上村代表が前職で設計のノウハウを蓄えた。創業後に組立治具を手がけたのは、樹脂加工と設計のノウハウを生かして、商品の付加価値を高められるとにらんだからだ。樹脂は金属に比べ用途が限られるため、樹脂加工だけにこだわらず、金属加工品と合わせることで仕事の幅を広げている。

顧客との打ち合わせで浮かんだイメージを形にし、試作・改善を繰り返しながら顧客満足を獲得している。

### 強み

## レスポンスの早さが決め手

樹脂加工と治具の設計、製作の両方を行う業者はほとんどないという。同社は治具を上村代表が長年の経験を生かして、顧客の要望を聞きながら設計している。

カーオーディオ機器組立ラインの治具は顧客がモデルチェンジして新製品を発売する際に必ず求められ、一個一個仕様が異なる。ただ治具の製作は手間がかかる割に、発注予算は少なく、費用対効果はさほど大きくない。機器メーカーが内製化するケースもあるが、ニッチ分野で競合が少ないのに加え、同社のような小回りの利く小規模企業がレスポンスの早さを強みに顧客の信頼を獲得している。

上村代表は治具を設計する際、機器メーカーの組立ラインを実際に見て、担当者の要望を聞いたうえで、適切な治具をつくっていく。試作した治具を試してもらいながら改善を重ねなければならず、それだけに治具開発のアイデアを豊富に持つ上村代表が重宝されている。

### 取り組み

## ものづくりを通じて 人材を育てる

「ものづくりを通じて人をつくっていく」を基本理念とし、人材育成に特に力を入れている。少人数のため、専門に検査を行うこともできないだけに、従業員個人の意識を高め、失敗を防いでいかなければならない。ただ機械を動かすのではなく、意識して動かすことを徹底し、不良品の発生を防ぎ、材料や時間のロスをなくしている。一人ひとりの意識が強い会社の根本になる。

「育った人にどうやって喜びを与えられるか」にも心を砕く。給与や福利厚生の方改革にも取り組んでいる。残業ゼロを徹底し、従業員には「時間効率を高めなさい」と指導する。時間内は集中して働き、仕事が終わればプライベートの生活充実を望んでいる。従業員を単なるワーカーとしてとらえるのではなく、技術や理念を継承しながらものづくりを支える人材を育てる。ただ真剣にものづくりをしたいという若い人となかなか巡り合わないことが悩みの種となっている。

### 今後の展開

## 少数精鋭で 縦長の成長を志向

上村代表は「会社の規模拡大には意味を感じていない」と話し、「縦長の成長」を志向する。縦長の成長とは、技術力の向上を推奨し、特化型の加工メーカーを少数精鋭の技術集団で運営していくこと。大抵の会社は機械設備や人員を増強して拡大を図るが、それは横長の成長であり、同社はそれらとは一線を画した独自路線を歩む。

これまで100種類以上の組立治具を納め、その数は増え続けている。上村代表は納入先を訪れて自分のつくった治具を目にするたびに「社会に貢献している」と実感する。従業員にも「自分のつくったモノがどう使われているか」を教えることで、ものづくりの喜びを感じさせる。

上村代表は「日本経済の基軸であるものづくりを守る」を信念に、それが「たとえ1人でも2人でも継承されて広がっていけばよい」と語る。環境に応じて作るモノは変わるかもしれないが、基本理念は変わらない。